

# イバラキ病様疾患の発生について

本年10月下旬以降、県内でイバラキ病に類似した症状を示す事例があり、遺伝子検査を行ったところ、イバラキ病と同類のウイルス（流行性出血病ウイルス血清型7）によるものでした。

症状はイバラキ病と類似していることから、今後も注意して頂き、下記の症状が認められた場合は、臨床獣医師の診療を受けてください。

※今後は媒介昆虫がいなくなることから、本疾患の発生は減少していくと考えられます。

原因は、イバラキ病と同類のウイルス（流行性出血病ウイルス血清型7）で吸血昆虫によって媒介されたと考えられます。ウイルスの流行には季節性（夏～秋）があり、冬を迎え気温が低下してきた時期は、吸血昆虫がいなくなることから、流行は終息していきます。

※イバラキ病（届出伝染病）は、流行性出血病ウイルス血清型2

## 症状

- ほとんどが症状なし（不顕性感染）
  - 軽度の発熱、食欲不振、流涙、結膜充血、泡沫性流涎、死流産
- 上記発症牛の一部に嚥下障害（咽喉頭・舌麻痺による）が見られ、脱水や誤嚥性肺炎により死亡することがあります



飲水の逆流（嚥下障害）



舌先端の持続的突出（舌麻痺）

## 主な伝播様式

吸血昆虫により媒介されます。  
牛から牛への接触感染はありません。

## 対策

治療は、効果のある治療方法はなく、対症療法となります。  
嚥下障害発症牛に対しても、補液及び誤嚥性肺炎の防止のための処置となります。  
症状が認められた場合は、臨床獣医師の診療を受けて下さい。